

自分の行動を振り返り、 次に生かすことができる児童の育成 —キャリア・パスポートにつながる実践を通して—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系
氏名 小坂井 菜衣

現在、子どもたちには、社会で求められる力を身につけ、物事を自ら判断できるようになることが大切であると考えられる。そのための方法として2020年度よりキャリア・パスポートが導入された。しかし、実践する上での誤解や課題もいくつか挙げられている。そこで現行の教育活動の仕組みの中でどのような実践ができるのか、子どもたちの協働する力を育成することを目的として実践研究を行った。方法としては、教科と学級活動を往還するカリキュラムを立て、ワークシートを活用して振り返りを行い、自分の学びや成長を次に生かすことができるよう実践を行った。

子どもたちの変容については、キャリアレジリエンスアンケートと授業で使ったワークシートの記述から見取り、分析を行った。

その結果、尺度得点においては子どもたちに大きな変容は見られなかった。しかし、ワークシートの記述からは、4月と比較して意識の部分においては一部変容が見られた。